様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１１０４５

研究課題名（和文）ヘルスリテラシーや学校保健活動参加がパレスチナ人生徒の就学継続に与える影響

研究課題名（英文）Effects of health literacy and school health participation on school enrollment for Palestinian students

研究代表者
藤屋　リカ（FUJIYA, Rika）

慶應義塾大学・看護医療学部（藤沢）・准教授

研究者番号：４０５８３９３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、紛争の長期化により社会的政治的に困難な状況にあるパレスチナにおける青少年の学校教育からの中途退学の問題に対して、ヘルスリテラシーを高め健康によりよく生きることが学校教育を継続するための一助になる可能性を探索した。その方法として、本研究立案における先行研究で収集された量的データの分析と考察、文献レビュー、質的研究手法による調査を実施した。同時に、青少年のヘルスリテラシーと関連要因について評価するためのアンケート用紙を作成した。研究結果を発表した論文において、就学年齢にある青少年に対して、政策立案者はヘルスリテラシーの概念を教育と保健医療制度の両方に組み込むことを推奨した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
パレスチナにおいて青少年のヘルスリテラシーの研究は非常に限られており、ヘルスリテラシーと学校教育についての探索と考察は初めての試みであり、学術的意義を持つ。また、紛争下のパレスチナで生きる青少年にとって、ヘルスリテラシーは、暴力への直接的な曝露と健康の因子としての栄養状態との関連を緩和すること、さらに、高いヘルスリテラシーのレベルは、暴力にさらされた場合でも健康に過ごすための一助になっていることが明らかになった。これらの結果をもとに、就学年齢にある青少年に対して、政策立案者はヘルスリテラシーの概念を教育と保健医療制度の両方に組み込むことを推奨したことは、社会的な意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：This study explored the potential of increasing health literacy and living better in health to help continue schooling to address the problem of adolescents dropping out of schooling in Palestine, a socio-politically difficult situation due to the prolonged conflict. The methods used were analysis and discussion of quantitative data collected in previous studies in the planning of this research, a literature review and exploration using qualitative research methods. At the same time, a questionnaire was developed to assess the health literacy of adolescents and related factors. In the paper publishing the results of the study, policymakers recommended that the concept of health literacy be integrated into both education and the health care system for school-aged adolescents.

研究分野：国際保健

キーワード：ヘルスリテラシー　学校保健　紛争　パレスチナ　質的研究法

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様 式 Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

ヘルスリテラシーについて、WHO は、個人が推進し維持する方法で、情報にアクセスし理解し使用する動機づけと、能力を決定する認知的および社会的技術（翻訳）と定義している。ヘルスリテラシーは、公衆衛生向上の要素であり、精神・心理面の健康や生活の質に影響を与える。

パレスチナは中東、ユダヤ人を中心とするイスラエル国の中に位置するアラブ系住民のパレスチナ人による国連でオブザーバー国家承認された自治区であり、ヨルダン川西岸地区(以下、西岸地区)とガザ地区から成る。現在、西岸地区には 250 万人、ガザ地区には 150 万人を超えるパレスチナ人が居住している。慢性化する紛争は、パレスチナ人の健康にも直接的・間接的に悪影響を与えてきた。特に、紛争が青少年の心理・精神的健康に与える影響は重大である。

西岸地区は、A 地区（パレスチナ完全自治）、B 地区（行政はパレスチナ、治安はイスラエル）、C 地区（イスラエル管理下）に分別されている。C 地区は、西岸地区の面積の約 6 割を占め、居住する約 30 万人の住民は、軍事封鎖による移動制限や家屋破壊、仕事や教育や医療サービスへのアクセスも困難な状況にある。

パレスチナでは、基礎教育 10 年、中等教育が 2 年である。学業の継続は、男子生徒は、9 年生から 10 年生にかけて就学率が約 10%低下する。中途退学の理由として、紛争の影響、暴力、教育の質の低さが挙げられるが、紛争の問題が複雑に絡み合う問題の解決には困難が伴う。根源的な問題の解決は必要だが、現状にある生徒が厳しい状況下でも健康を保持し継続的に教育が受けるための対策は必要である。学校保健分野のアプローチとしてヘルスリテラシーの向上や保健活動への参加が、青少年の精神・心理面の健康を高め、学業継続の重要な貢献因子となるのではないかと考えた。

本研究は、「慢性紛争下における栄養問題の二重負担：克服の鍵としてのヘルスリテラシー」（科研費基盤研究（B）No.16KT0039）の成果として、慢性的紛争下で心理的に負の影響を与える環境で生き続けている青少年が、ヘルスリテラシーの向上によって、より良く健康的に生きられる可能性や希望が示されたことを踏まえて立案した。

## ２．研究の目的

慢性的な紛争下において青少年の学校教育継続の困難な状況のあるパレスチナにおいて、ヘルスリテラシーや学校保健活動が、生徒の精神・心理面の健康や就学継続に与える影響を明らかにする。そして、政治的社会的状況が異なる地域の比較を通して、相違点を特定する。さらに、ヘルスリテラシーや就学の継続を暴力への暴露レベルに応じて検証し、ヘルスリテラシーの持つ役割や高めるための条件を探索する。

## ３．研究の方法

本研究では、質的手法、量的手法の両方を用いた混合研究法による比較研究を計画していた。

2020年3月から質的調査手法によるキーインフォーマントインタビュー調査、2020年度後半に量的研究としてのアンケート調査を実施する予定であった。しかし、新型コロナウィルス感染症の世界的な蔓延のため、パレスチナでの現地調査が不可能になり、対象特性からオンライン対応での調査は適切ではないと判断した。また、学校が新型コロナウィルス感染症蔓延のため閉鎖される期間も長く、学業継続において負の影響因子となった。

そのため、当初の方法から、大幅に方法を変更した。

パレスチナの青少年のヘルスリテラシーに関して明らかにしていくため、(1)量的研究として分析するためのアンケート用紙の作成と検討、(2)本研究立案のもととなった「慢性紛争下における栄養問題の二重負担：克服の鍵としてのヘルスリテラシー」で収集した12歳～15歳のパレスチナ人青少年1200人のデータに関しての詳細の分析と考察、(3)文献レビュー、(4)質的研究手法としてのフォトボイス手法を用いての調査と分析とした。フォトボイスによる調査では、新型コロナウィルス蔓延時において、高校生がどのようにして健康に関しての知識を実際に活用しながら健康に留意して生活し、オンラインも含めての学業を継続するよう取り組んだのかということに調査内容を再設定し、調査の対象は、新型コロナウィルス感染症の蔓延が激しかった時期に高校生で学業継続に影響を受けた、2023年度の大学1・2年生とした。

## ４．研究成果

### (1)量的研究として分析するためのアンケート用紙の作成と検討

本研究立案のもとになった「慢性紛争下における栄養問題の二重負担：克服の鍵としてのヘルスリテラシー」の調査で用いた、アラビア語版青少年用ヘルスリテラシー尺度について継続して分析と考察を重ね、2020年6月に「Psychometric properties of an Arabic-language health literacy assessment scale for adolescents (HAS-A-AR) in Palestine」BMJ Open誌に発表した。HAS-A-ARについては、今後、パレスチナだけでなくアラビア語圏で活用される可能性がある。

また、中学・高校の就学年齢にあるパレスチナ青少年のヘルスリテラシーと関連する因子（社会人口学的因子、well-being、暴力への暴露等）に関して、HAS-A-ARを基盤として、パレスチナの共同研究者と共に検討し、アンケート調査用紙を作成した。新型コロナウィルス感染症蔓延の影響のため、本研究でこの調査用紙を使用することはできなかったが、今後のパレスチナにおける研究で利用していく予定である。

### (2)12歳～15歳のパレスチナ人青少年1200人のデータに関しての分析と考察

先行の「慢性紛争下における栄養問題の二重負担：克服の鍵としてのヘルスリテラシー」で収集した12歳～15歳のパレスチナ人青少年1200人のデータに関しての分析と考察を進め、2021年9月に「Health literacy as a key to improving weight status among Palestinian adolescents living in chronic conflict conditions: a cross-sectional study」としてBMJ Open誌に発表した。

慢性的な紛争下のパレスチナにおいて、ヘルスリテラシーは、暴力への直接的な曝露と青少年の健康因子の一つである栄養状態との関連を緩和することができることが明らかになった、また、ヘルスリテラシーのレベルが高い場合、あらゆる形態の暴力に直接さらされた青少年、政治的暴力のみ、及び、家庭内暴力や学校暴力のみにさらされた青少年の肥満率は低いことが示された。これらの結果からヘルスリテラシーの向上は生徒の就学継続に貢献すると考察し、この論文の結論として、就学年齢にある青少年に対して、政策立案者はヘルスリテラシーの概念を教育と保健医療制度の両方に組み込むことを推奨した。

(3)文献レビュー

2019 年度に中東地域における青少年のヘルスリテラシーについての状況を把握し、評価していくために、システマティックレビューの準備を行い、PROSPERO にレビュー要旨の登録手続きをして研究を進めた。新型コロナウィルス感染症蔓延下において、ヘルスリテラシーに関する論文が増加した状況を鑑み、2022 年度に再度文献検索し、82 本の論文を分析した。

分析の結果、中東地域における青少年および若年成人のヘルスリテラシーのレベルは低から中程度であることが分かった。また、ヘルスリテラシー向上のために学校ベースの健康教育介入を適用している研究結果もあった。さらに、中東の青少年のヘルスリテラシーは、人口動態、社会経済的要因、インターネットの使用状況の影響を受けていた。また、中東地域は様々な紛争問題を抱えているにも関わらず、難民や障害を抱えていたり暴力にさらされているなど、弱い立場にある青少年のヘルスリテラシーを評価する研究はほとんどなかった。

この結果は、レビュー論文として BMJ Open 誌に投稿した。本研究期間ではないが、2023 年 6 月に「Health literacy among adolescents and young adults in the Eastern Mediterranean region: a scoping review」として発表となった。

(4)フォトボイス手法を用いた調査

2023 年度に、質的研究手法のフォトボイス手法を用いた調査を実施した。フォトボイス手法はパレスチナで用いられたことがほとんどないため、本研究では、テーマに沿った写真を撮影して持ち寄り、撮影者はその写真の背景にある個人の心情や経験を説明してもらい、その結果をまとめていくこととした。

調査の対象は、高校生の時期に新型コロナウィルス感染症蔓延時に最も影響を受けた 2023 年時の大学 1・2 年生を対象として、ビルゼイト大学で実施した。

研究に関心を持った学生 47 人に対して、研究に関しての説明とインフォームドコンセントを行ない、その内の 16 名が回答し、内訳は、女性 7 名、男性 9 名であった。回答者の多くは、新型コロナ感染症の蔓延で高校が閉鎖され遠隔教育が中心だった頃の写真を用いて、その当時の状況について説明した。本研究期間は終了したが、結果については分析を継続し、論文にまとめて国際学術誌に発表することを目指している。

(5)おわりに

新型コロナウィルス感染症蔓延により研究期間の延長を余儀なくされ、研究方法についても変更したが、本研究によりパレスチナの青少年のヘルスリテラシーは学校教育においても重要であることが示唆された。また、厳しい社会状況にあっても、ヘルスリテラシーは青少年が教育を受け続けることができ将来に希望を持って生きていく一助になる可能性について、研究を続けていく必要性を確認した。

この分野の研究を発展させるために、パレスチナにおける青少年のヘルスリテラシーを包括的に把握しヘルスリテラシー向上のための教育ツールの開発を目指す研究を立案し、2023 年度からは「慢性的紛争下を生きる青少年のヘルスリテラシー向上：混合研究法による教育ツール開発」（科研費基盤研究（B）No.23H03212）について、ビルゼイト大学と共同で発展的に取り組むことにつながった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　4件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Mohammed B A Sarhan, Harry S Shannon, Rika Fujiya, Masamine Jimba, Rita Giacaman. | ４．巻<br>10(6) |
| ２．論文標題<br>Psychometric properties of an Arabic-language health literacy assessment scale for adolescents (HAS-A-AR) in Palestine | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>BMJ Open | ６．最初と最後の頁<br>e034943 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1136/bmjopen-2019-034943 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Mohammed B A Sarhan, Yu Fujii, Junko Kiriya, Rika Fujiya, Rita Giacaman, Akiko Kitamura, Masamine Jimba. | ４．巻<br>36(3) |
| ２．論文標題<br>Exploring health literacy and its associated factors among Palestinian university students: a cross-sectional study | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>Health Promotion International | ６．最初と最後の頁<br>854-865 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1093/heapro/daaa089 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Mohammed B A Sarhan, Rika Fujiya, Akira Shibanuma, Rita Giacaman,  Junko Kiriya , Akiko Kitamura, Masamine Jimba. | ４．巻<br>12(9) |
| ２．論文標題<br>Health literacy as a key to improving weight status among Palestinian adolescents living in chronic conflict conditions: a cross-sectional study | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>BMJ Open | ６．最初と最後の頁<br>e061169 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1136/bmjopen-2022-061169 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Mohammed B A Sarhan, Rika Fujiya, Junko Kiriya, Zin Wai Htay, Kayono Nakajima, Rie Fuse, Nao Wakabayashi, Masamine Jimba. | ４．巻<br>13(6) |
| ２．論文標題<br>Health literacy among adolescents and young adults in the Eastern Mediterranean region: a scoping review | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>BMJ Open | ６．最初と最後の頁<br>e072787 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1136/bmjopen-2023-072787 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Sarhan MBA, Shannon HS, Fujiya R, Jimba M, Giacaman R. |
| 2．発表標題<br>Psychometric properties of an Arabic-language health literacy assessment scale for adolescents (HAS-A-AR) in the occupied Palestinian territory (oPt) (Best poster prize). |
| 3．学会等名<br>Lancet Palestinian Health Alliance (LPHA) 11th Conference（国際学会） |
| 4．発表年<br>2021年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 神馬　征峰<br>(JIMBA Masamine)<br>(70196674) | 東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・教授<br>(12601) | |

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | サルハン　モハメド<br>(SARHAN Mohammed) | | |
| 研究協力者 | ジアカマン　リタ<br>(GIACAMAN Rita) | | |

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| パレスチナ(PL0) | ビルゼイト大学 | | | |